

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091000137		
法人名	社会福祉法人 高陽会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム風倶楽部(1階)		
所在地	和歌山県橋本市高野口町名古屋2-1		
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3091000137-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの暮らしが継続できるように、入居時には生活歴や習慣、趣味嗜好などを細かく聞き取るようにしています。また、グループホームが終の棲家になる方も少なからずいらっしやいます。最期の時が来るその時まで、できるかぎり穏やかに過ごしていただけるように、また、グループホームの一員として役割を持ちながら生活していただけるように、スタッフが協力しながらかかわっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が掲げる理念のもと、管理者及び職員は、コロナ禍でも工夫をしながら、入居者の好み・希望等を把握・共有し、日々のケアに活かす工夫をされている。また、事業所は家庭的な雰囲気にも包まれたうえ、職員の細やかな配慮のもと入居者は安らぎを得ている。入居者の健康面に関しては、協力医療機関のもと、往診・訪問看護・通院介助等、本人の希望に添った受診支援があり、安心して日々を過ごせている。事業所は高野口町の街中にあり、近隣にはスーパーマーケット・行政機関・医療機関等、生活を営むうえで便利であり、同一敷地内にはデイサービスもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の壁に法人の理念を掲示しており、朝礼の際に唱和しています。また、グループホーム独自の理念もあります。	毎日法人の理念を唱和し、職員全員ケアに対する統一を図っている。また、グループホーム独自の理念も掲げ、入居者の好み(作句や楽器の演奏、懐メロの音楽を聞く)といった、その人らしい生活が続けられるような支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	以前からの課題ではありますが、コロナ禍ということもあり、地域と交流する機会はいま皆無のような状況です。	コロナ禍以前は、地域との相互関係を大切にし、奉仕活動や情報収集を行い、地域への発信を行ってきたが、現在は活動できていない。コロナ禍の収束後は、地域活動や事業所が果たすべき役割を積極的に担って行くことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設以来、安全で安心な介護・生活支援を目指しており、これまでの取り組みが地域の人々の信頼及び地域貢献につながっていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、令和2年1月8日の開催が最後。それ以降、中止が続いており、文書による報告のみとなっています。	コロナ禍のため、運営推進会議は、参加者を限定したうえで実施している。外部の方への報告については、入居者の現状報告や事業所の取り組み等を中心に書面にてお知らせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居時、退居時、事故発生時には、速やかに報告しています。また、疑問等がある時は、電話または訪問にて確認するようにしています。	市役所には頻繁に出向き、入居者の状況や、運営状況、職員の研修状況、介護保険制度や補助金の申請など多岐にわたり、担当者と密に連携を図るなど協力体制が確立されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、内部研修の機会を設けており、意識の啓発に努めています。介護者として、身体拘束を行ってはいけないことはスタッフ全員が認識しています。	身体拘束をしないケアの実践にむけて、内部スタッフ間で委員会を開催。また、年2回法人による研修もある。夜間以外の施錠はしない、外出等は職員の同行で対応している。また、帰宅願望の想いを汲み取り寄り添うケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるような言動はないか、管理者はスピーチロックを含めて確認するようにしています。また、虐待の防止について学ぶ機会も設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等をもとにして、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深めています。また、高齢者権利擁護推進員養成研修への参加も奨励しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人及び事業所の運営方針やサービスの内容、利用料金等について、パンフレットを用いて丁寧に説明を行っています。家族の不安や疑問点を解消できるように、十分な説明を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見や要望があった場合は、その内容について職員間で周知徹底し、対応策について検討しています。また、相談や苦情の場合は、相談苦情報告書を作成。管理職を交えて対応策を協議・実行しています。	入居者の家族には、気軽に訪問いただき率直な意見を出していただくなど信頼関係が築かれている。いただいた意見については、職員全員で共有したうえで検討し業務改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や毎日のミーティングで出た意見を1階及び2階の管理者が協議。内容をまとめたうえで、施設会議や事業所管理者会議に提案しています。	事業所内の人間関係は良好であり、半年に1回個人面談を実施し、個々の目標達成度等について研鑽を行っている。職員から、気になること・意見・提案等が挙がった場合は、管理者は、解決できることはその場で言い、検討が必要な場合は、月1回のユニット会議内で話し合い、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や意見交換会を定期的実施。不満や悩みを聞き取るように努めています。職員は一年間の目標設定及び自己評価を行い、管理者はその内容を把握。就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒の職員については、新卒時採用研修を実施。既卒の職員についても、基礎研修や応用研修を実施しています。介護の経験がない職員もいるので、その都度OJTなどを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を通じて、同業者と交流する機会を設けています。それぞれの施設の課題について話し合うことで、サービスの質の向上につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面接によって、本人の不安や要望を話してもらい、可能な限りそれに対応できるような環境作りや関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接、入居に至るまでの期間、家族の不安や要望を聞き取り、その解消につながるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や入居時の聞き取りを通じて、どのような支援が必要なのか見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることとできないことを見極め、家事や趣味に取り組んでもらうことによって、暮らしを共にする者同士、お互い様の関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	より良いケアを行うためには、家族の協力が欠かせません。家族と一緒に考え、良いケアを提供できるように、家族と連絡を密にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でかなり限定的になりますが、家族や親戚、友人が気軽に面会に来れる雰囲気作りを心がけています。また、理容室や美容室通われる方については、予約及び送迎の支援も行っています。	コロナ禍に伴い、入居者の安全を第一に考え、現状は月1回の散髪ボランティアの訪問のみである。入居者から、家族に電話してほしいとの要望には答えられているが、友人からの会いたいとの電話に対しては、外出や面会が自粛されているため、対応が難しい状況である。また、家族との外出も控えてもらっている。	コロナ禍収束の見通しがわからない現状から、家族や本人の顔が見え、声が聞こえるオンラインでの面会の検討を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの間人関係を把握し、テーブルの席の配置を考えたりトラブルにならないように適宜間に入ったりしています。また、孤立しないように集団レクも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は状況の確認のためにMSWや家族と連絡を取り合っています。退居後も必要があれば相談に乗るなどしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は適宜確認しており、それらを可能な限り尊重するべく取り組んでいます。	入居者からは自発的な要望はないが、職員が、いくつか提案した際は、本人のやりたいことが意見として出てくる場合がある。家族には、面会時に率直な意見や、提案を聞き情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャー、サービス事業所などから聞き取りを行い、これまでの生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、顔色、表情、食事や水分の摂取量、様子など、普段と違うところがないか常に確認。気になるところがあればミーティングや申し送りノートで情報の共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気になることがあればケアカンファレンスを適宜開催しています。職員間で意見を出し合い、安全に・安心して暮らせるように検討しています。	家族からの情報を踏まえ、毎月のモニタリング及び半年に1回カンファレンスを実施し、状態の変化については、都度見直しを行っている。日々のケアの中で、入居者の状況を詳しく記録し、ニーズの把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容や様子はその都度タブレットに入力しており、バイタルサイン、食事摂取量、水分摂取量などはグラフで分かるようになっています。気付いたことはミーティングで報告し、情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を可能な限り尊重。その時々生まれるニーズに対応しています。自宅などでの様子を家族に教えてもらい、何が最低か探るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は職員と一緒にスーパーマーケットへ買い物に出かけていました。最近は宅配や移動販売のサービスを利用する機会が増加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、協力医療機関の訪問診療を受けています。本人や家族が他の医療機関での診察を希望した場合、あるいは診察が必要な場合はかかりつけ医に相談し、支援を行っています。	週1回、内科医の往診と訪問看護がある。かかりつけ医への通院に関しては、家族対応をお願いしているが、家族の都合の悪い時は、職員が対応する。家族対応の場合、状態を記録した書面を渡し受診してもらうよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が訪問。バイタルサインの測定、処置、爪切り(白癬の場合)、相談助言などの支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関関係者に速やかに情報が提供できるように、利用者別に情報提供書を作成。既往歴、内服薬、連絡先などが一目で分かるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めの段階で医師や看護師を交えて家族と話し合い、意向を確認。また、その後、家族の心境に変化がないか、時々再確認を行うようにしています。意向に沿ったケアが実践できるように、各職種が協力しながらチームで支援に取り組んでいます。	契約時に、看取りの指針についてサインをいただいている。看取りについては、入居者の状態の変化に伴い、主治医から家族に対し説明があり、意向の確認を取っている。訪問看護の24時間対応や主治医との協力体制も整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	体調急変時及び事故発生時のマニュアルを作成しています。また、外部研修へ参加して実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しています。また、水や食料の備蓄もしています。	法人として、BCP策定に向け月1回の会議を開催している。水害に関しては、垂直避難の想定で訓練を行い、火災訓練では入居者も参加し実施している。また、夜間想定訓練も実施している。食料の備蓄3日分、水は1か月ごとに入れ替えを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護のため、特に排泄介助は気を遣っています。少し小さめの声で声かけしたり難聴の方に対しては筆談を用いたりしています。また、夜間であってもドアを開けたままにしないように指導しています。	排泄の誘導については、入居者の尊厳を守り、耳元で小声で声掛けを行い、狭い場所での介助は、パーテーションを設置するなど個人のプライバシーに配慮している。入浴についても、同性介助を基本とし、入居者個人の情報が綴られたファイル等は、事務所に保管して個人情報保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を否定しないように心がけています。また、自己決定できるように、いくつかの選択肢を用意したり代替案を提案したりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけをするとき、一方的にならないように説明し、同意を得るように心がけています。介護者の都合ばかり優先しないように職員に対しても指導しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の場合、できる方は自己にて髭剃りをしてもらうように声かけを行い、できない方は職員が毎日髭剃りをしています。整髪や爪切りも適宜行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理やおやつ作り、食器洗いなど、できる方は手伝ってもらっています。また、安全に食事ができるように、調理の方法や食事の形態を工夫しています。	1週間のメニューは入居者の意図を汲み取り作成している。入居者の能力にあった役割分担があり、お茶碗・箸・コップは各々が自宅で使用していた陶器を使っている。入居者と職員と一緒に、食事を楽しむ機会を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量を管理しています。お茶を好まない方に対しては、脱水予防のために、別の飲料を提供したりゼリーを提供したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。義歯の方は夜間洗浄剤に浸けて保管しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、それぞれの排泄のパターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換を行っています。なるべく小声で声かけするなど、自尊心を傷つけないように、無理強いしないようにしています。	排泄チェック表や本人の様子をみながら、各々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を優先し、リハビリパンツの使用を減らす取り組みをしている。職員は、羞恥心に配慮した適切な声掛けに努め、不快な思いをさせないように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を勧めたり食物繊維の多い食品を提供したりしています。それでも便秘気味の方は下剤を服用してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応設けていますが、体調や気分を考慮して声かけしています。拒否気味の方については、例えば、散歩の後に誘うなど工夫しています。	入浴は基本2日に1回、午前と午後に分けて実施しているが、入浴を毎日希望する入居者にも対応している。入浴を拒否される方に関しては、無理に勧めず、声掛けを工夫するなどの対応を図っている。洗面は毎朝全員に行ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を尊重し、その方のペースに合わせて支援を行っています。就寝時の室温や照明など、希望に沿った環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルで管理し、効能や副作用が一目で分かるようにしています。降圧剤や通じ薬は医師と相談しながら服用してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	立位不安定な方が多いため、座ってできる家事を職員と一緒にしています。晴天で暖かい日には、外気浴や散歩を通じて気分転換してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は外食など積極的に出かけていましたが、コロナ禍のため、散歩やドライブが中心になっています。	外出が制限されるなか、時折、近くの商店街や近隣への散歩を職員と一緒にしている。今後は、人の密度の少ない箇所を選択し、入居者が外の空気に触れて元気になれる支援を考えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の金額を自己管理している方がいらっしゃいます。ときどき移動販売や宅配のサービスを利用されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用できる方については、周囲の迷惑にならないように一定のルールの下で使用してもらっています。手紙のやりとりをしている方はいませんが、暑中見舞いや年賀状を職員と一緒に作成しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方や歩行器の方が通りやすいようにテーブルを配置しています。また、季節感を感じられるような飾り付けもしています。	玄関には、四季の季節感を味わえるよう花が飾られており、散歩から帰った際は、休息できるソファも設置されている。廊下も広くセカンドリビングがあり、入居者同士の視線が気にならぬよう、圧迫感のない格子の仕切りもある。個人個人が、ソファにて落ち着いて過ごせる空間づくりに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルと椅子、それ以外に一人掛けのソファを置き、ゆったりと過ごせる空間があります。そこでよくうたた寝をされています。また、セカンドリビングがあり、そこで思い思いの時間を過ごすことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットや小型のタンスがありますが、これまで使い慣れた家具を持ち込むことも可能です。机やいすを持ち込んでいる方もおり、自分の空間を作ることができます。	各部屋にはクローゼットが設置されており、整理された居室は清潔感が感じられる。家族の写真や自分で制作した飾り物、使い慣れた家具や調度品を置いて、各々が落ち着いて過ごせる生活空間づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーの構造になっています。歩行不安定の方、歩行器の方、車椅子の方が安全に移動できる環境です。		